

在宅生活改善調査 集計結果

発送事業所数：79件

回収事業所数：39件

回収率：49.4%

【在宅生活改善調査】

調査の目的

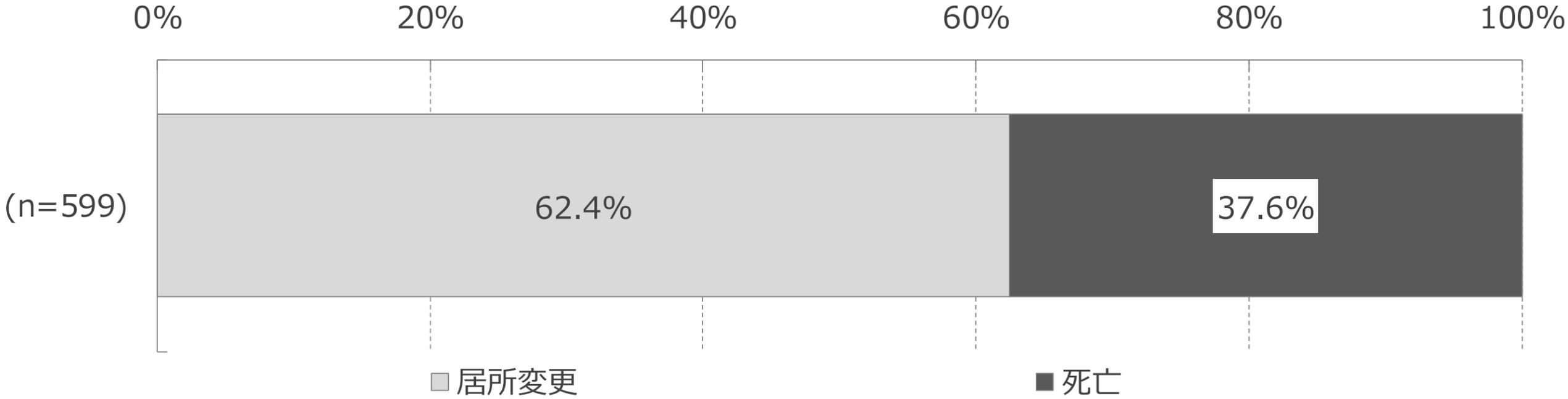
- ・在宅生活改善調査では、「**過去1年間**」の、①自宅等から居場所を変更した利用者の行先別人数や②自宅等において死亡した利用者の人数、また、現在自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、①人数や②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握します。
- ・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じ、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討し、介護保険事業計画に反映していくことを目的としています。

調査の概要

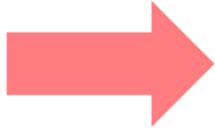
- ・アンケートは、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの方を対象に行いました。各ケアマネジャーには担当する利用者について、上記の「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」を抽出し、その概要を回答いただきました。
- ・それぞれのケアマネジャーが判断する、「その方の生活改善に必要な支援・サービス」が「地域に不足する支援・サービス」である、という考え方が基礎にあります。
- ・本調査の集計では、「特養待機者」「その他施設等の待機者」「在宅サービス待機者」という言葉を使用していますが、これは特養のみでなく、その他のサービスの待機者についても同じように把握し、整備の必要性を検討するためのものです。

過去1年間の実績

過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



中野区全体で、過去1年間に
自宅等から居所を変更した利用者数

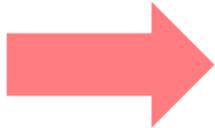


粗推計 **回答実数**

758人

374人

中野区全体で、過去1年間に
自宅等で死亡した利用者数



456人

225人

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
(注2) 「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

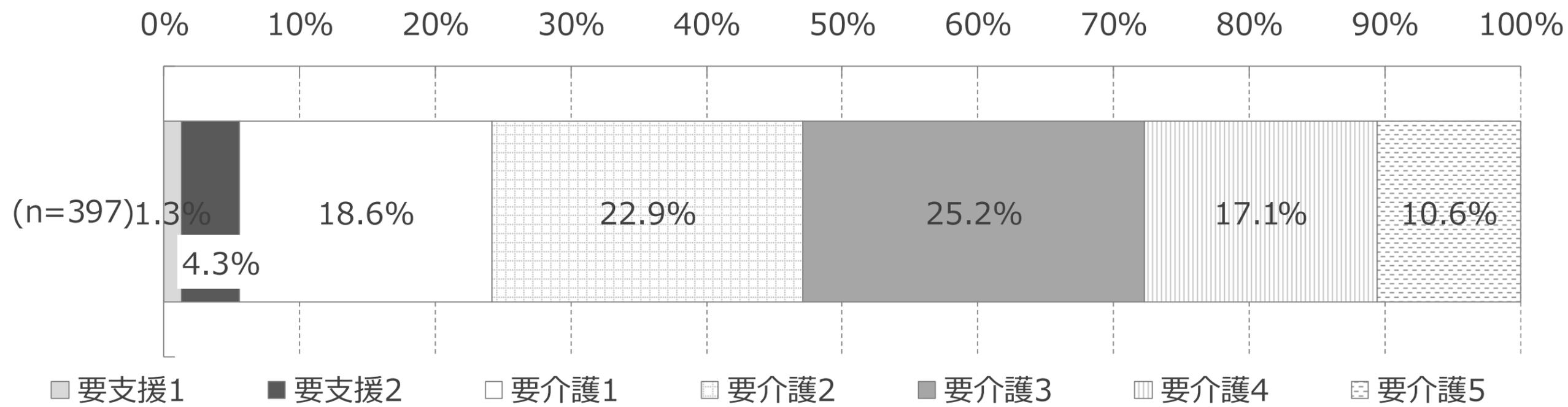
過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	4人 1.1%	6人 1.6%	10人 2.7%
住宅型有料老人ホーム	9人 2.4%	44人 11.8%	53人 14.2%
軽費老人ホーム	3人 0.8%	2人 0.5%	5人 1.3%
サービス付き高齢者向け住宅	2人 0.5%	17人 4.5%	19人 5.1%
グループホーム	22人 5.9%	3人 0.8%	25人 6.7%
特定施設	19人 5.1%	34人 9.1%	53人 14.2%
地域密着型特定施設	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護老人保健施設	30人 8.0%	21人 5.6%	51人 13.6%
療養型・介護医療院	13人 3.5%	18人 4.8%	31人 8.3%
特別養護老人ホーム	57人 15.2%	29人 7.8%	86人 23.0%
地域密着型特別養護老人ホーム	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	14人 3.7%	18人 4.8%	32人 8.6%
行先を把握していない			9人 2.4%
合計	173人 46.3%	192人 51.3%	374人 100.0%

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

(注2) 表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

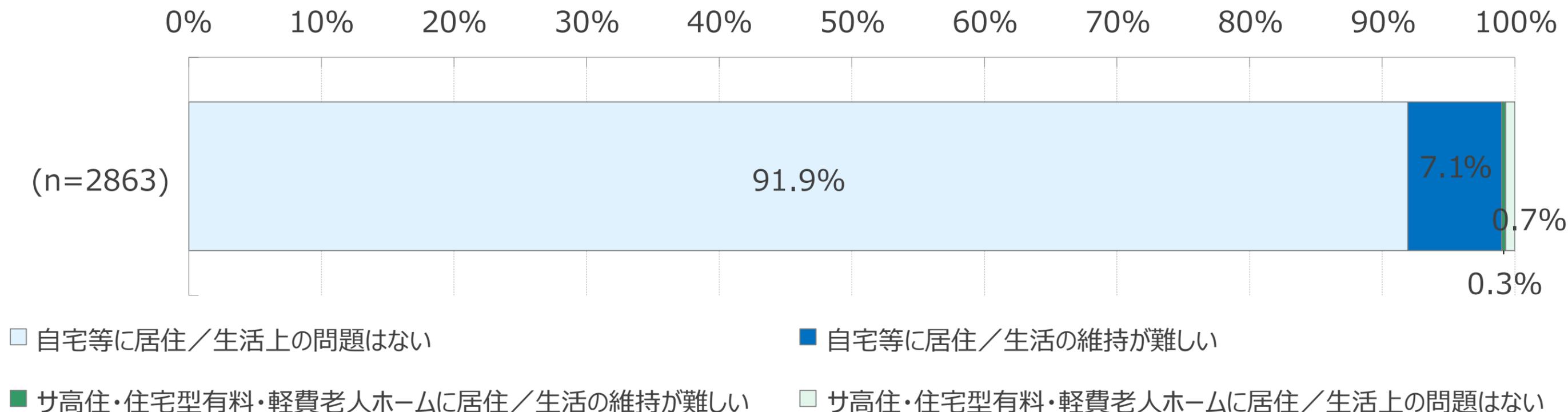
過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



(注) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住する利用者のうち、生活の維持が難しくなっている割合



中野区全体で、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数



合計
 (要介護2以下)
 (要介護3以上)

	7.4%
	粗推計
	回答実数
	427人
	211人
	114人
	94人

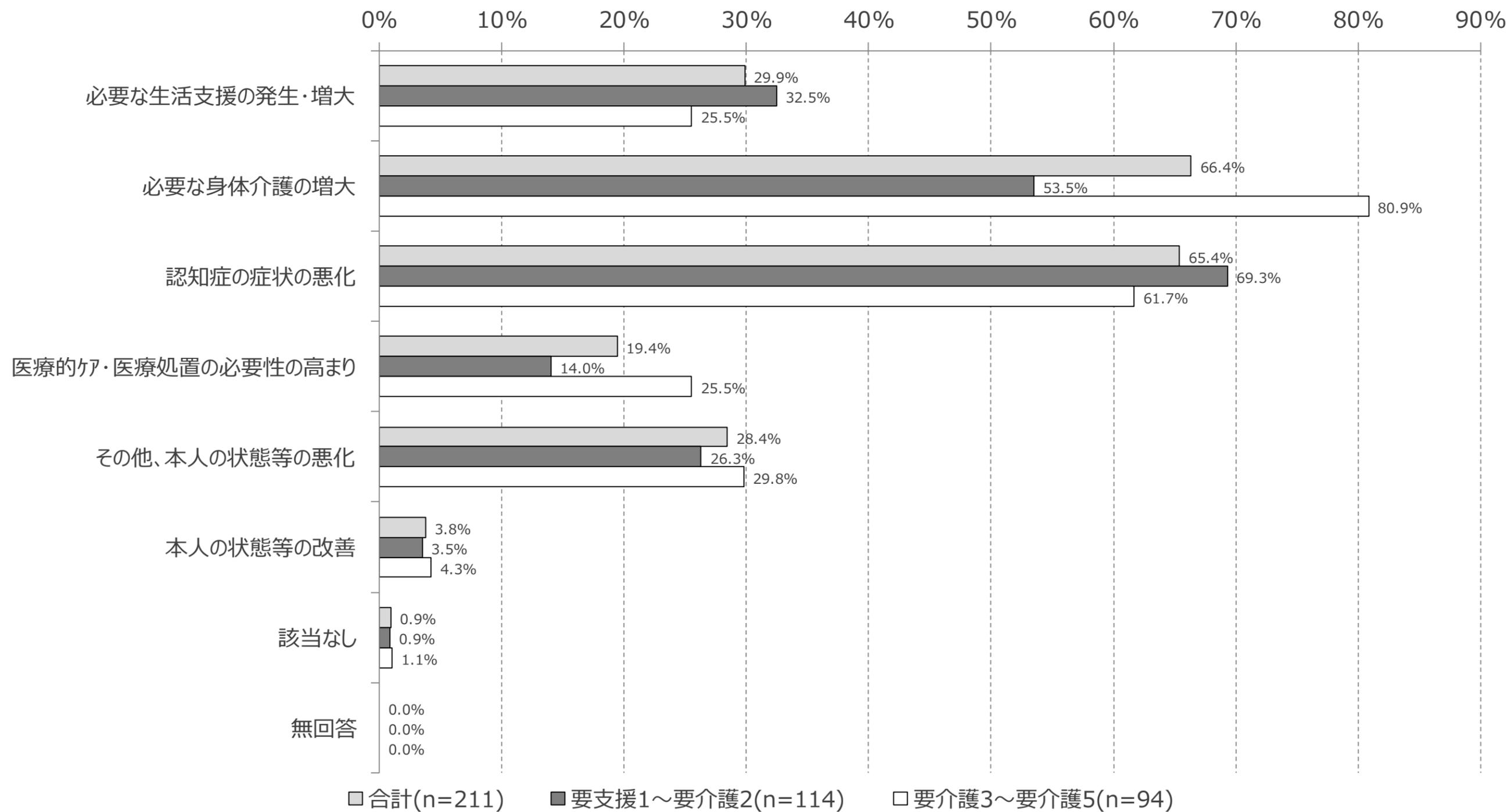
(注)「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

順位 (上位10類型)	回答実数	粗推計	割合	世帯類型				居所			要介護度		
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	自宅等(持ち家)	自宅等(借家)	サ高住・住宅型有料・軽費	介2以下	介3以上	
1	32人	65人	15.2%	★					★			★	
2	30人	61人	14.2%	★				★				★	
3	21人	43人	10.0%			★		★					★
4	18人	36人	8.5%	★					★				★
5	17人	34人	8.1%		★			★					★
6	15人	30人	7.1%	★				★					★
7	14人	28人	6.6%				★	★				★	
8	12人	24人	5.7%		★			★				★	
9	11人	22人	5.2%			★		★				★	
10	9人	18人	4.3%				★	★					★
上記以外	32人	66人	15.2%										
合計	211人	427人	100.0%										

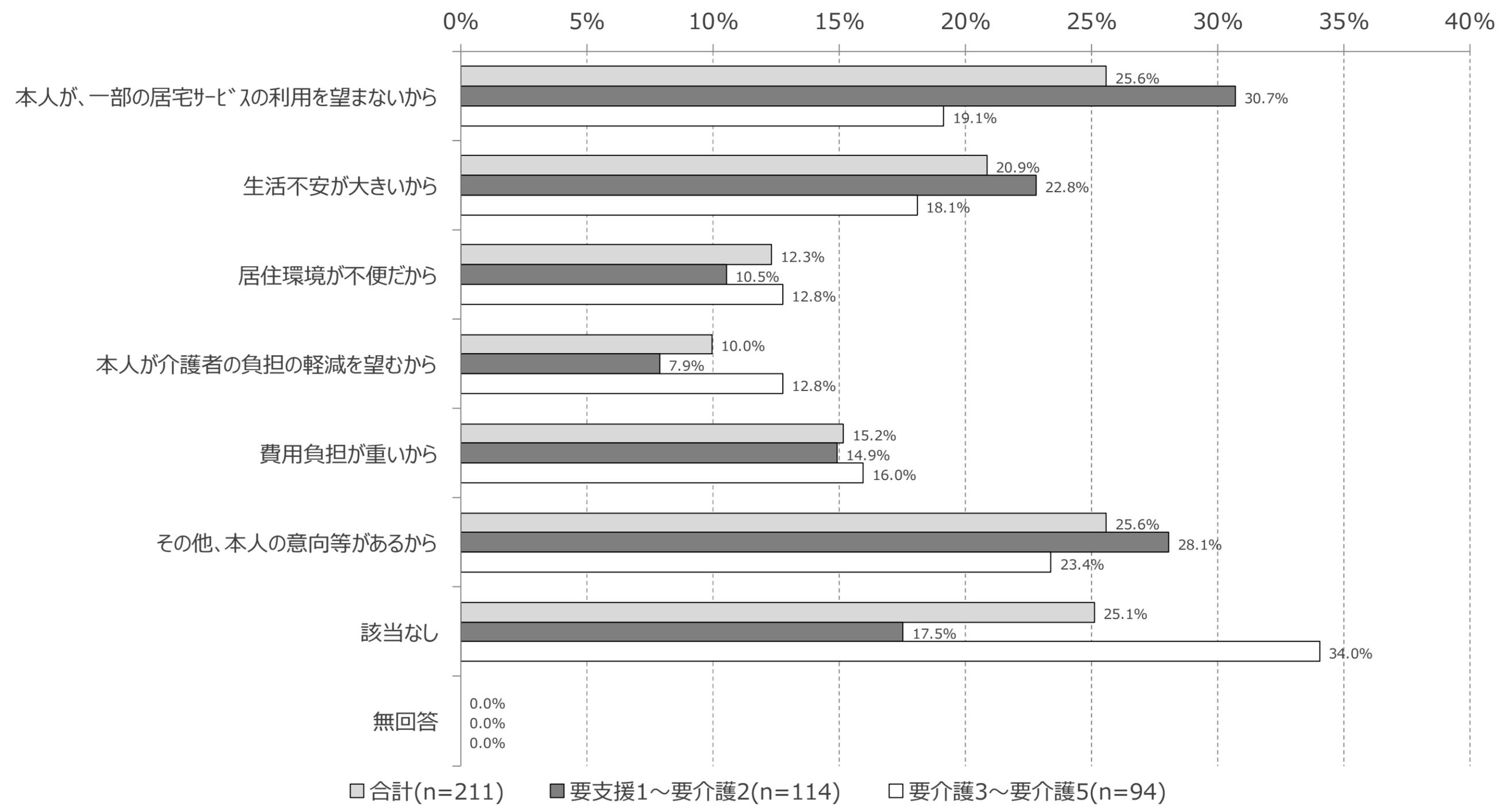
(注) 「粗推計」は、回答数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。また、「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由 (本人の状態に属する理由、複数回答)



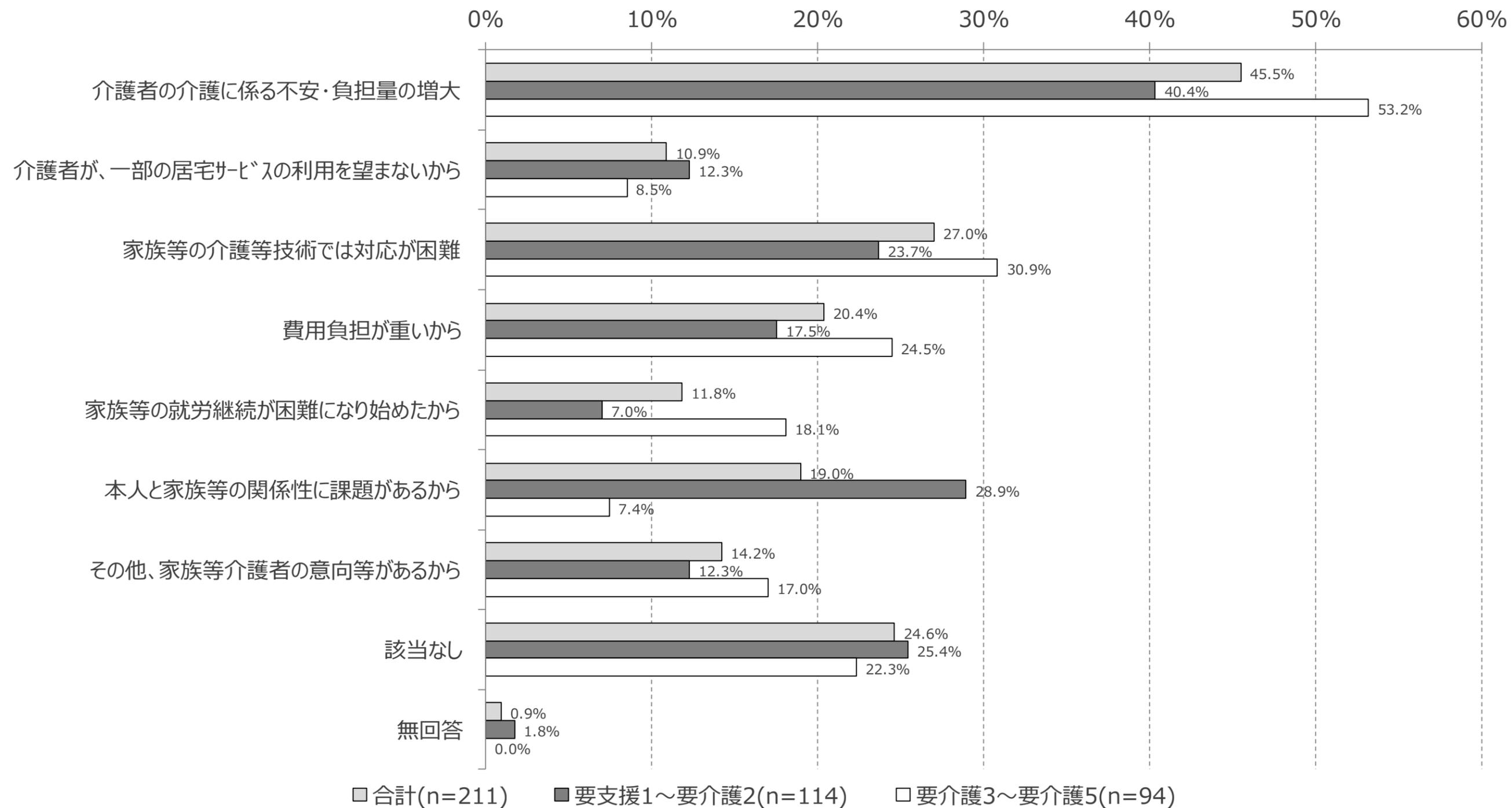
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由 (本人の意向に属する理由、複数回答)



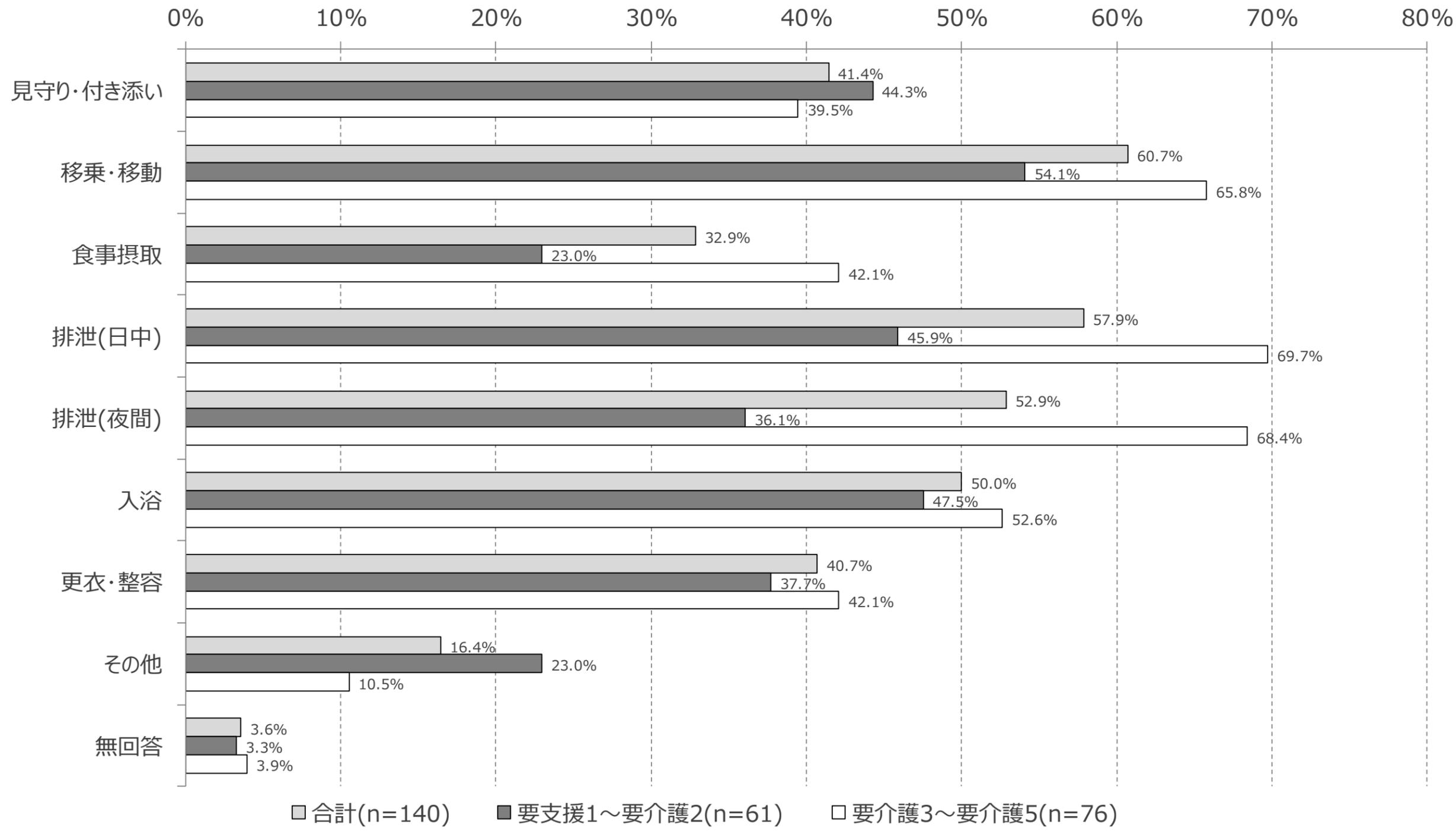
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由 (家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答)



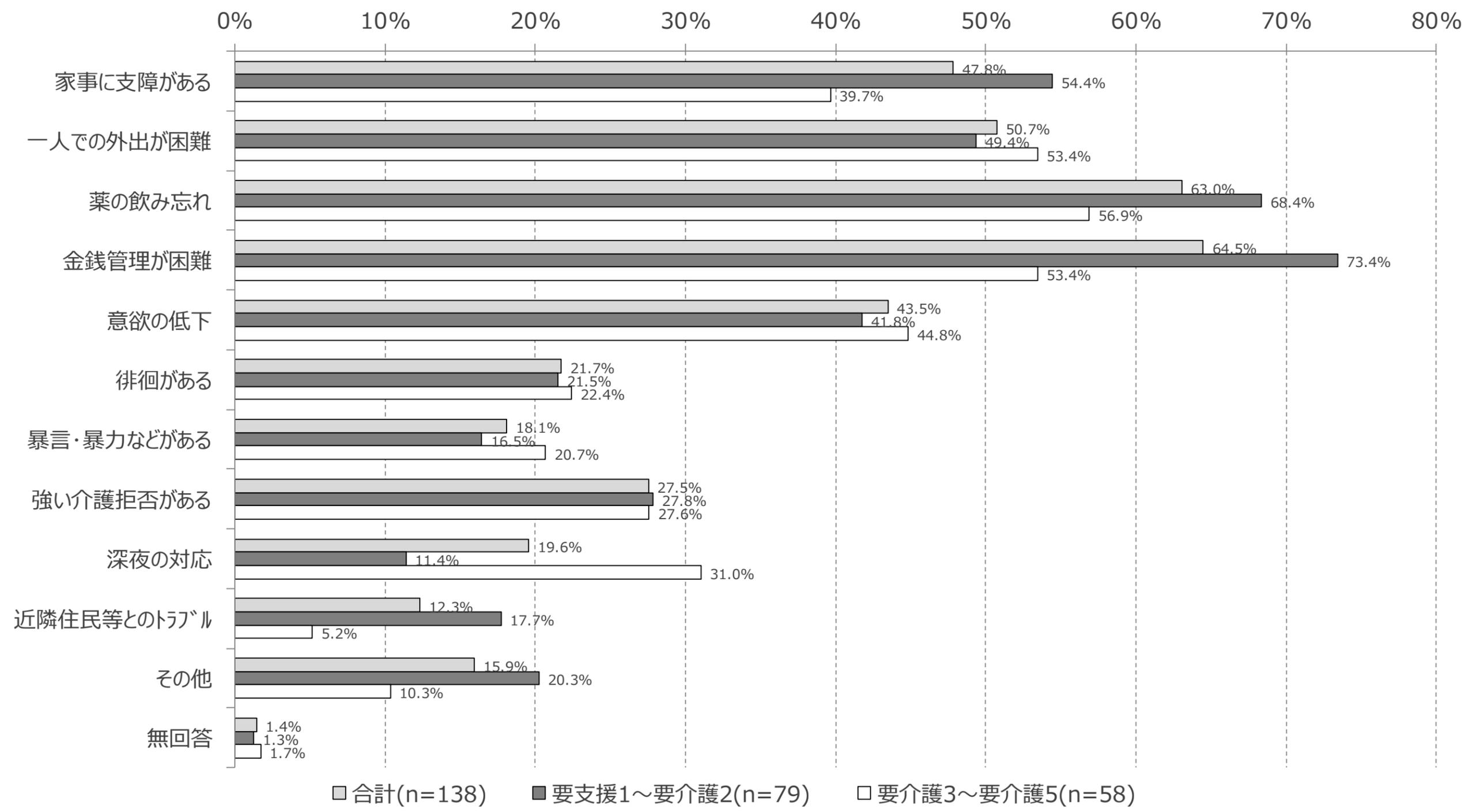
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



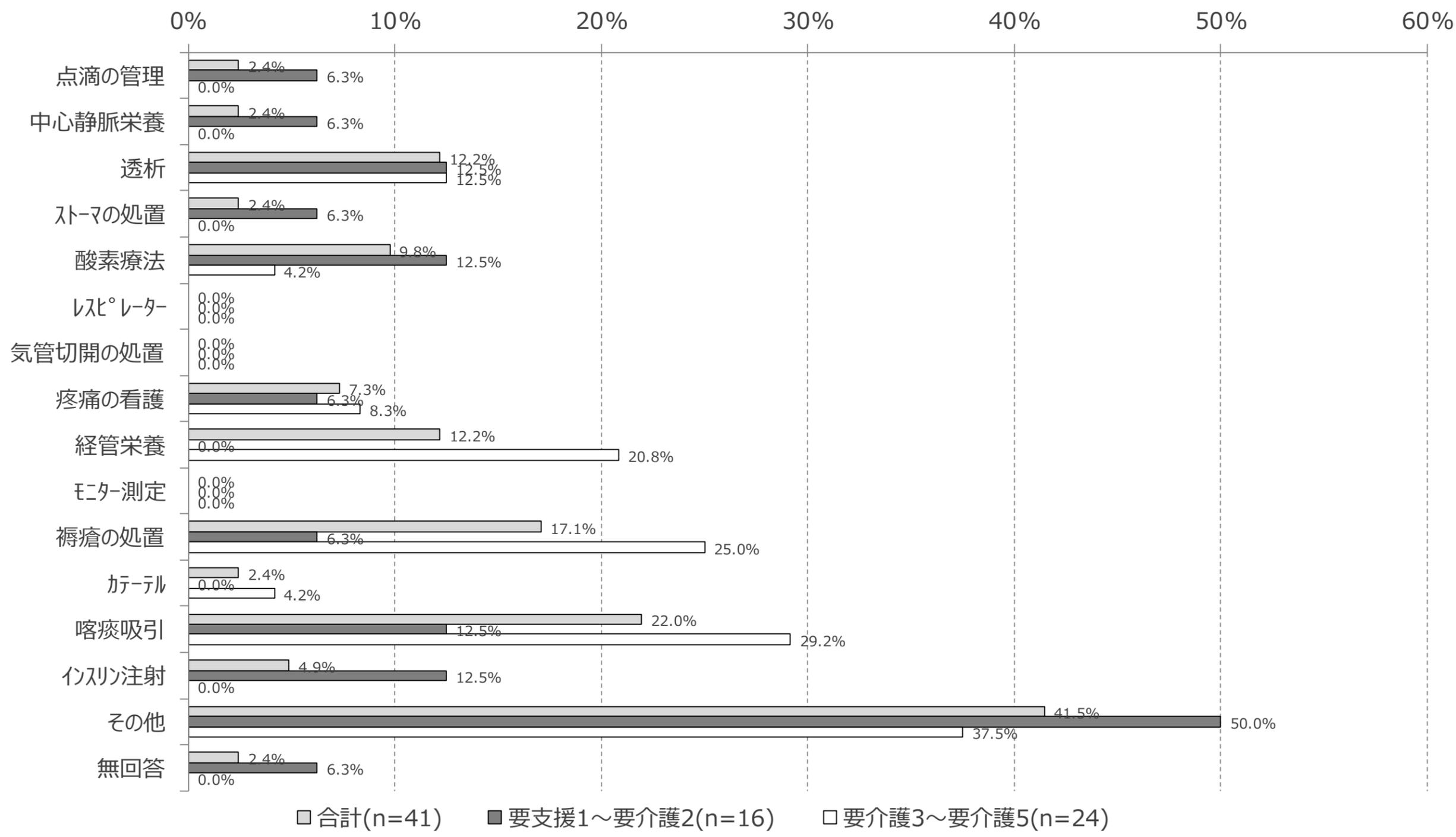
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



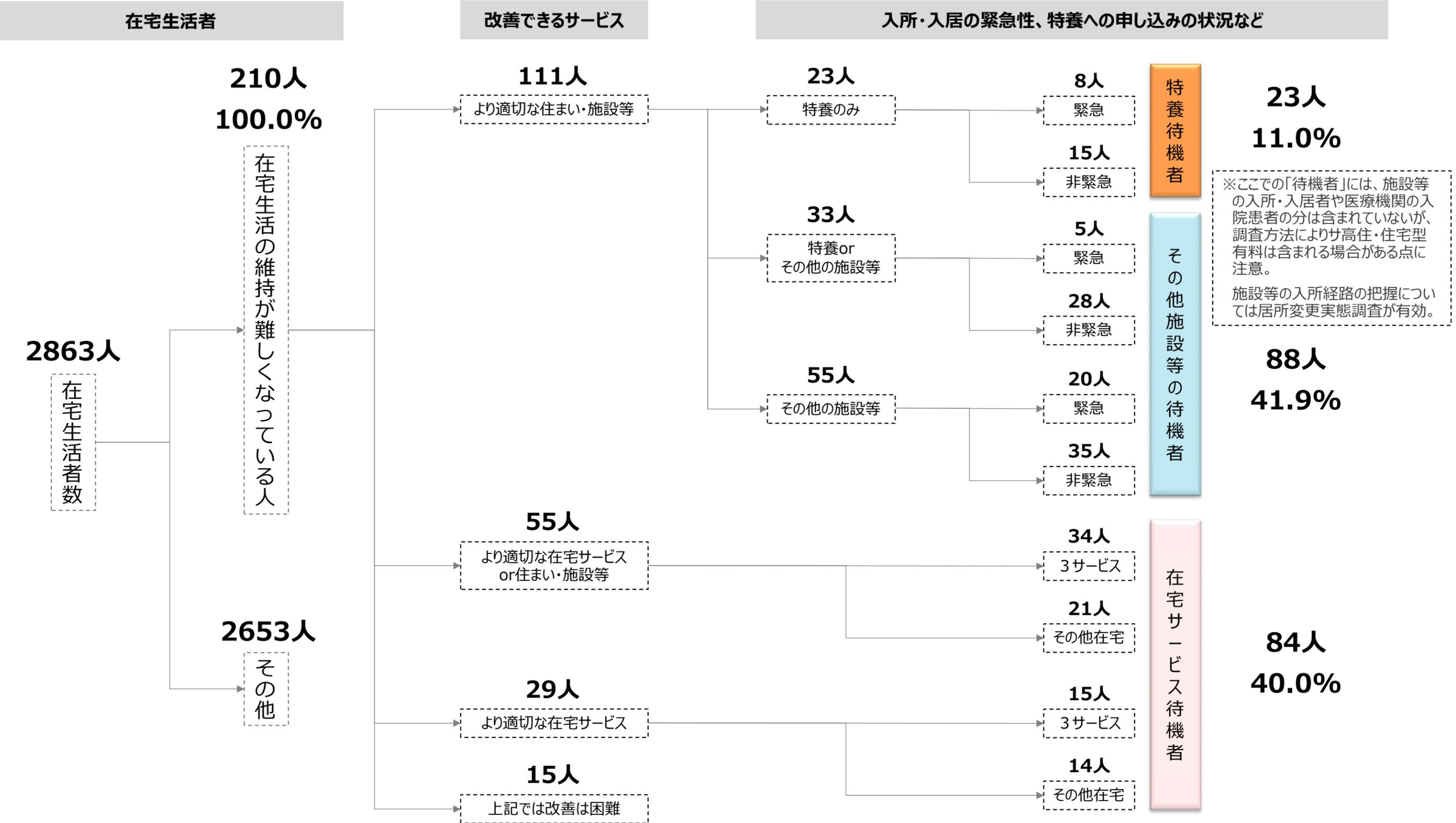
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更



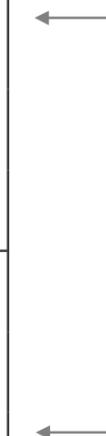
※ここでの「待機者」には、施設等の入所・入居者や医療機関の入院患者の分は含まれていないが、調査方法によりサ高住・住宅型有料は含まれる場合がある点に注意。
施設等の入所経路の把握については居所変更実態調査が有効。

(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
 (注2) 「生活の維持が難しくなっている人」の合計211人のうち、上記の分類が可能な210人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、210人を分母として算出したものです。
 (注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
 (注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の 生活の改善に必要なサービス（複数回答）

生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(88人)		在宅サービス待機者(84人)			
	サービス名	人数	割合	サービス名	人数	割合
住まい・施設等	住宅型有料	12人	13.6%	住宅型有料	9人	10.7%
	サ高住	9人	10.2%	サ高住	8人	9.5%
	軽費老人ホーム	7人	8.0%	軽費老人ホーム	4人	4.8%
	グループホーム	34人	38.6%	グループホーム	15人	17.9%
	特定施設	25人	28.4%	特定施設	13人	15.5%
	介護老人保健施設	9人	10.2%	介護老人保健施設	8人	9.5%
	療養型・介護医療院	13人	14.8%	療養型・介護医療院	7人	8.3%
	特別養護老人ホーム	33人	37.5%	特別養護老人ホーム	23人	27.4%
在宅サービス	-		ショートステイ	32人	38.1%	
	-		訪問介護、訪問入浴	18人	21.4%	
	-		夜間対応型訪問介護	5人	6.0%	
	-		訪問看護	11人	13.1%	
	-		訪問リハ	3人	3.6%	
	-		通所介護、通所リハ、 認知症対応型通所	18人	21.4%	
	-		定期巡回サービス	25人	29.8%	
	-		小規模多機能	23人	27.4%	
	-		看護小規模多機能	10人	11.9%	

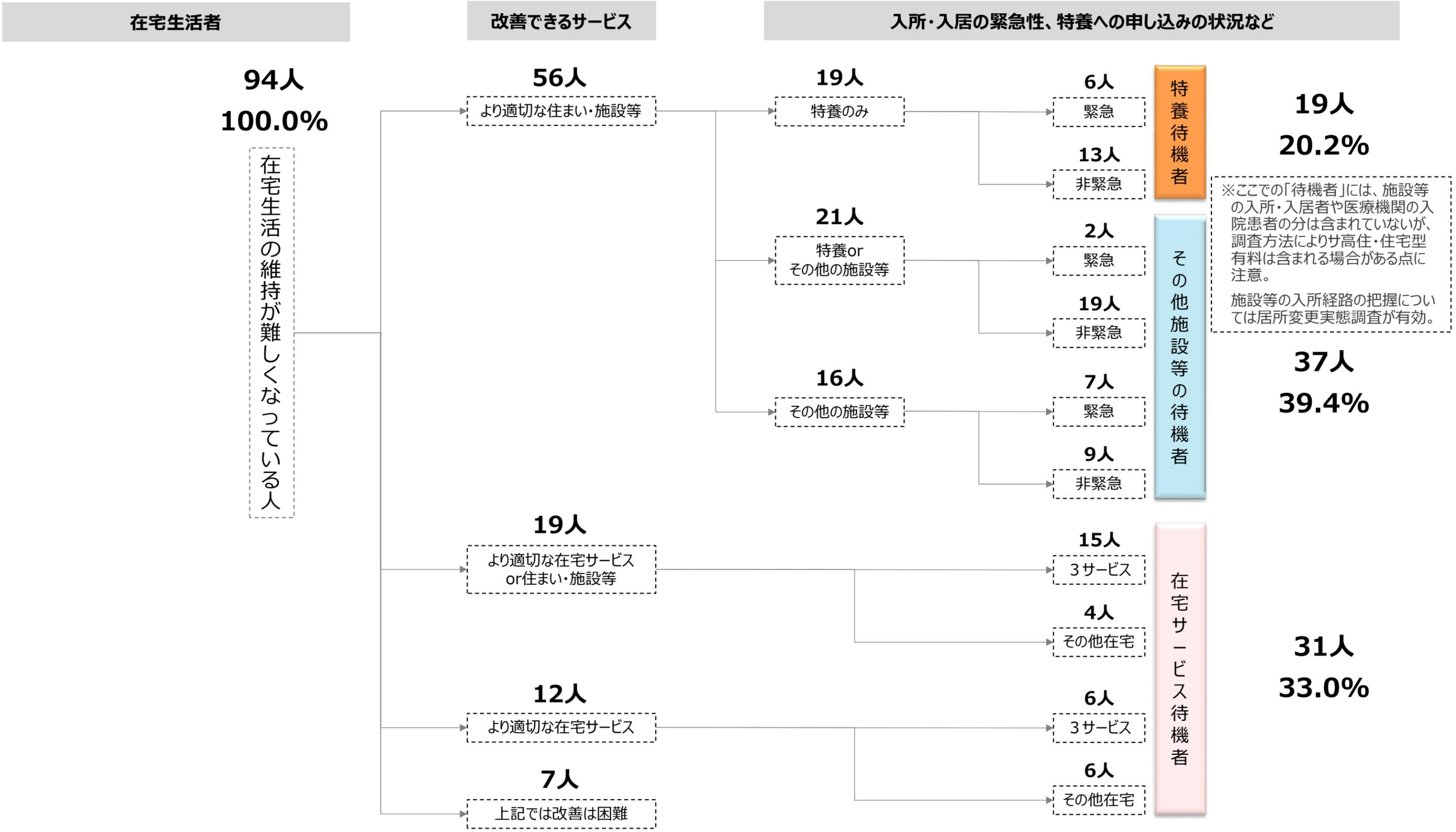
生活の改善に向けて、代替が可能



(注1) 割合は、それぞれ、その他施設等の待機者88人、在宅サービス待機者84人を分母として算出したものです。

(注2) 「在宅サービス待機者」について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」と「在宅サービス」の両方を回答している場合は、代替が可能としています。

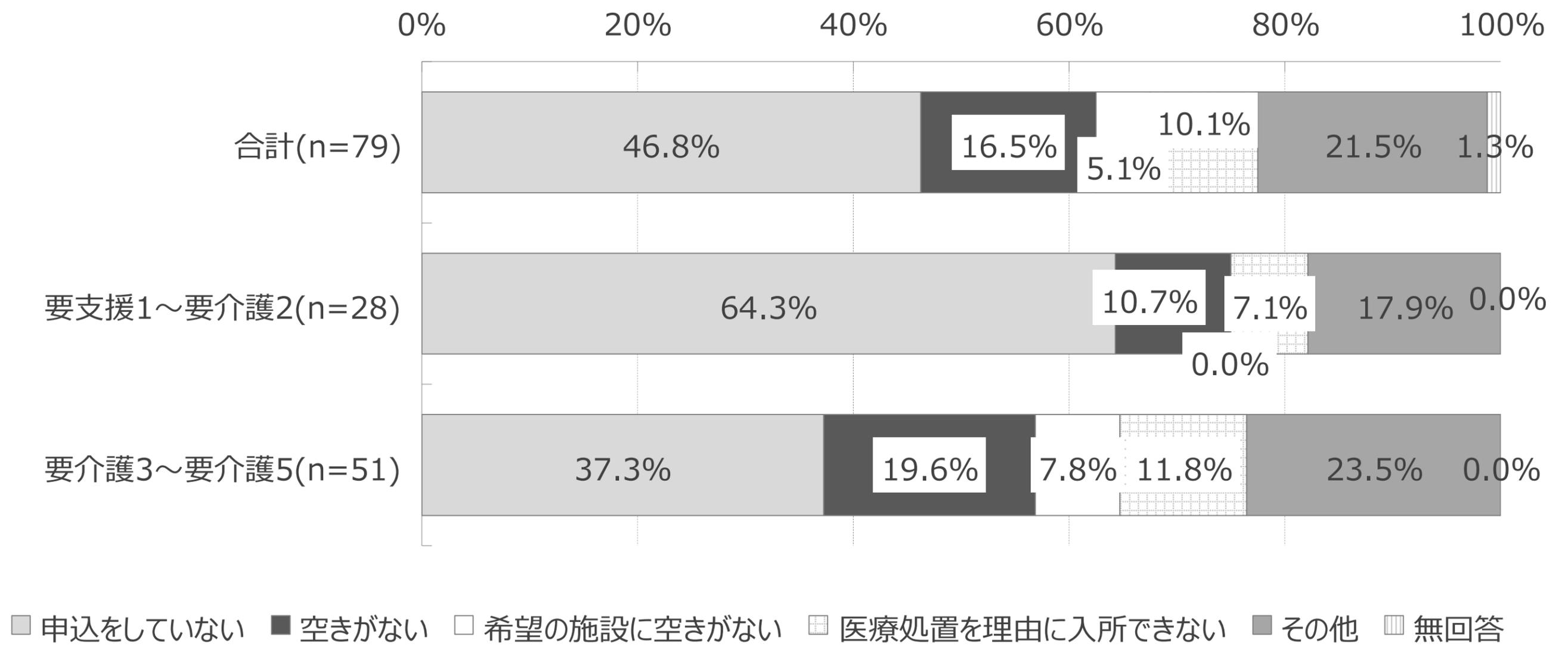
「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更（要介護3以上）



※ここでの「待機者」には、施設等の入所・入居者や医療機関の入院患者の分は含まれていないが、調査方法によりサ高住・住宅型有料は含まれる場合がある点に注意。
施設等の入所経路の把握については居所変更実態調査が有効。

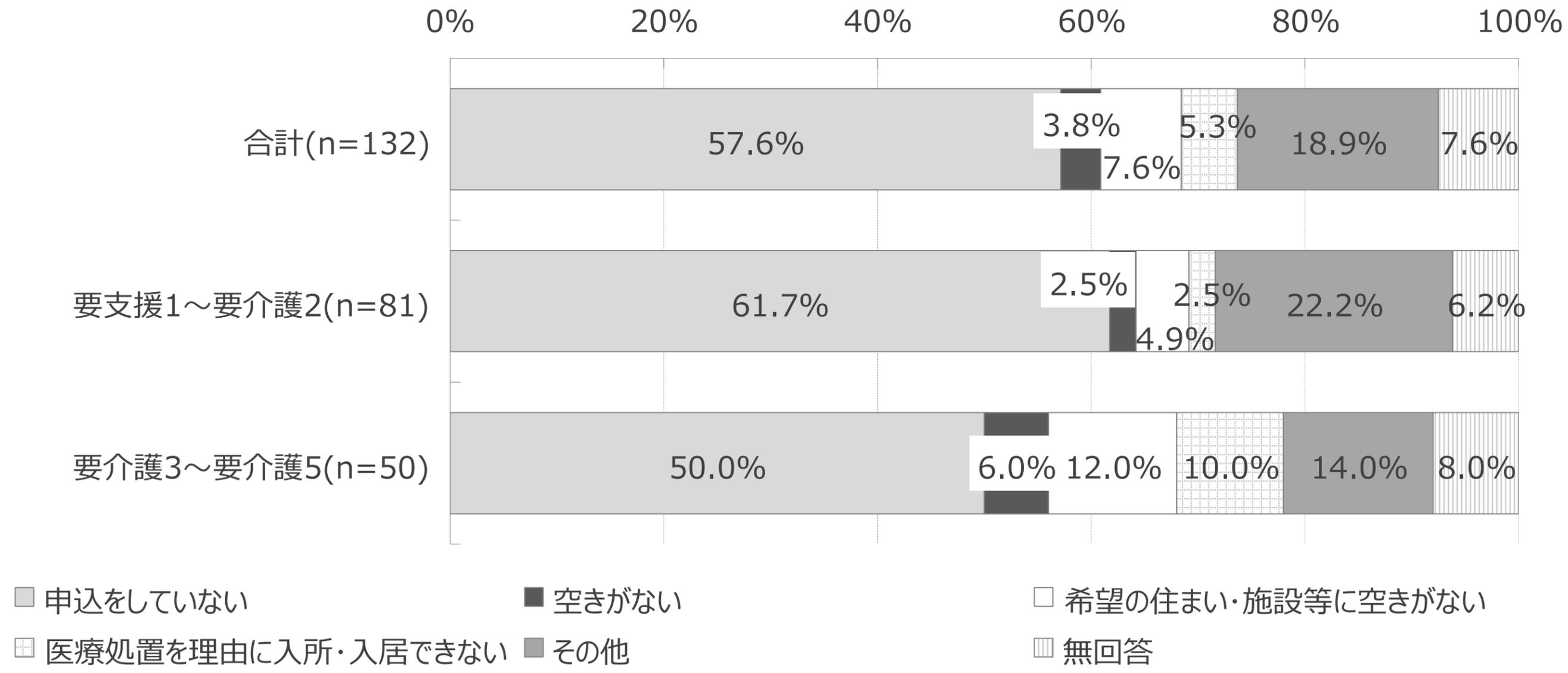
(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
 (注2) 「生活の維持が難しくなっている人（要介護3以上）」の合計94人のうち、上記の分類が可能な94人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、94人を分母として算出したものです。
 (注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
 (注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

特養に入所できていない理由 (改善に必要なサービスで、特養を選択した人)



(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由 (改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人)



(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。